

新型コロナウイルス感染症への対応状況等について

1 要旨・目的

新型コロナウイルス感染症の感染状況及び対応状況等について報告する。

2 現状・背景（10月3日現在）

ステージ評価：ステージⅡ

新規報告数(直近1週間の10万人当たり)：7.8人

感染経路不明割合(直近7日移動平均)：34.5%

確保病床の使用率：8.3%

入院率：25.7%

重症病床における確保病床の使用率：8.8%

3 概要

(1) 対象者

すべての県民・事業者

(2) 実施内容（詳細は別紙のとおり）

- ・ 医療・療養体制の確保
- ・ PCR検査の実施
- ・ 医療資材の確保・供給 など

(3) スケジュール

—

(4) 予算

	(累計額)	(R3年度現計予算額)
新型コロナウイルス感染症対策	361,382百万円	181,492百万円
うち関係分 感染拡大防止対策	128,132百万円	96,287百万円
医療提供体制の確保	93,915百万円	33,688百万円

4 その他（関連情報等）

新型コロナウイルス感染症 まとめサイト

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/2019-ncov/>

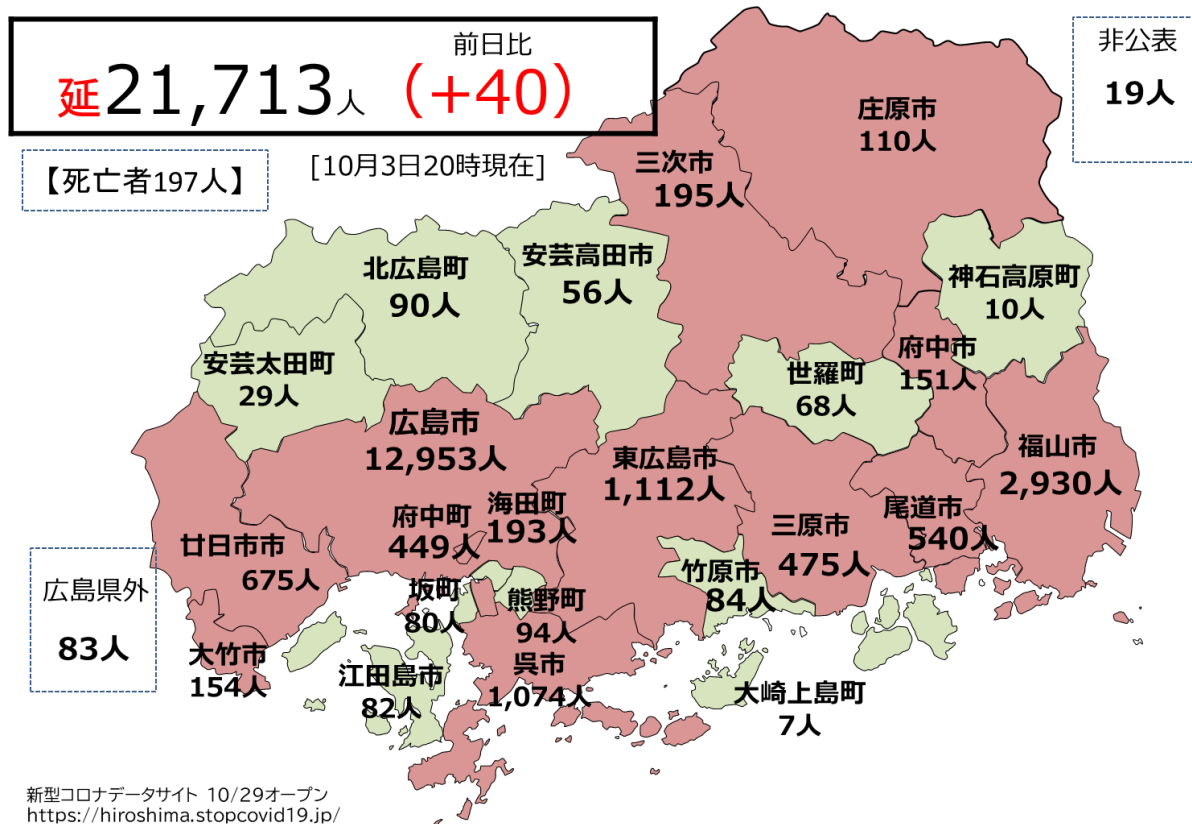
1 広島県の状況

本年4月下旬からの感染拡大に対して、5月8日から7月11日まで集中対策を実施し感染状況を低い水準まで抑え込んだ。

その後、再び感染拡大見られたことから、「早期集中対策」を令和3年7月31日から開始し、8月20日からは「まん延防止等重点措置」の適用、8月27日からは「緊急事態措置」の実施など、機動的な対策を講じることにより、想定を超える感染の急拡大の歯止めと、感染状況の改善に向け取り組んだ結果、9月28日に県全体の感染状況をステージⅡとしたが、広島市、東広島市、府中町及び海田町で比較的高い水準の継続的感染が認められたため、緊急事態宣言の解除された9月30日以降も、引き続き行動制限を働きかけるなど、集中対策に取り組んでいる。

全国的には、感染者の新規報告者数(直近1週間の10万人当たり)が減少している傾向が見られるが、中長期的に感染拡大が反復する可能性が指摘されているため、今後とも、基本的な感染防止対策や、県境を越える移動の慎重な判断を県民・事業者に対し要請するとともに、ワクチン接種を確実に進め、感染の再拡大や医療提供体制のひっ迫を回避し、重症者・死亡者の発生を最小限に抑えていく必要がある

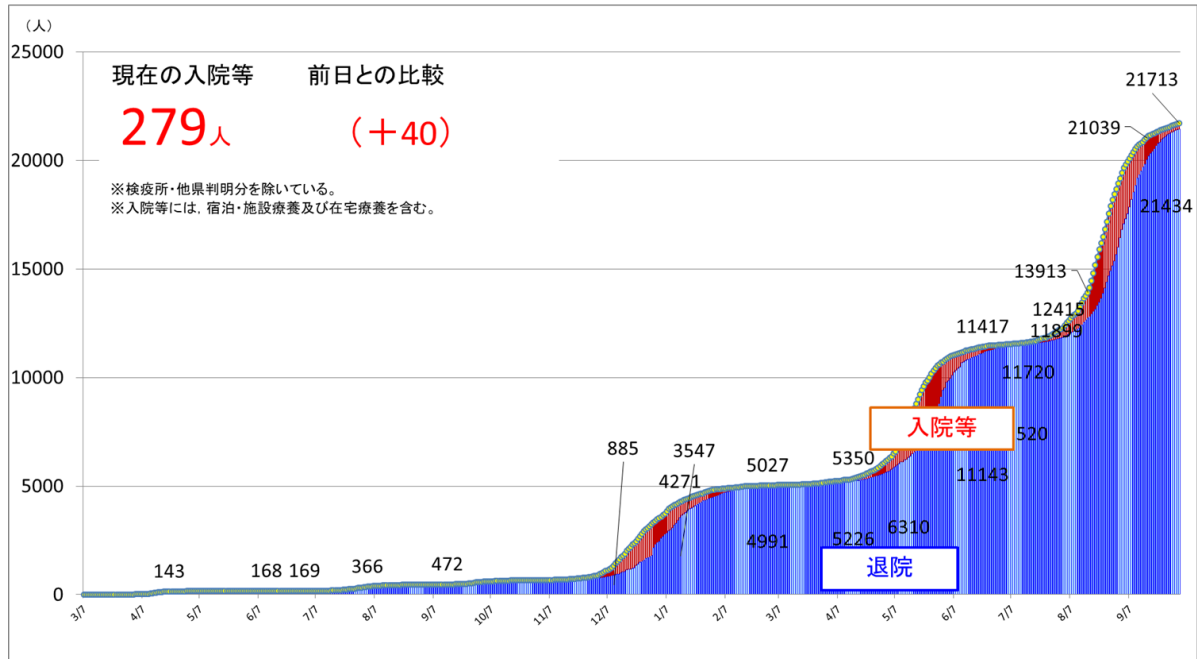
新型コロナウイルス感染症患者の状況（広島県発表分）



新型コロナウイルス感染症患者の推移(広島県)

【入院等と退院の状況】

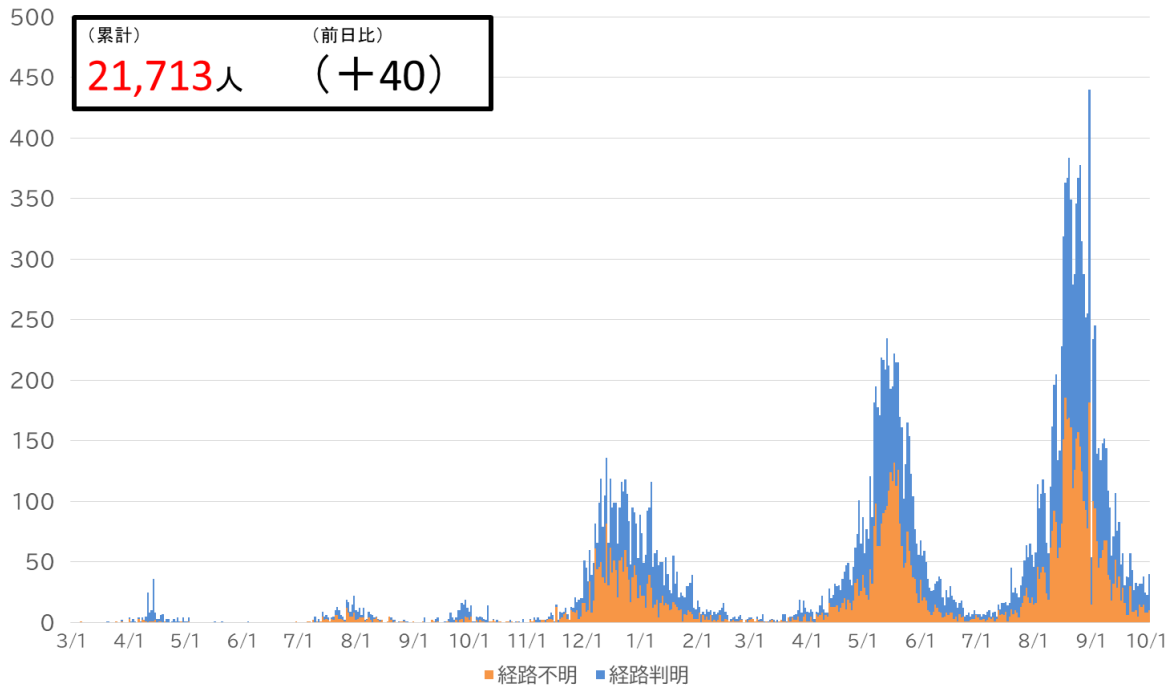
10月3日20時整理



新型コロナウイルス感染症患者の推移(広島県)

【検査結果判明日別】

10月3日20時整理



2 医療・療養体制の確保

(1) 入院病床の確保（令和2年4月14日～）

患者が発生した際の入院先の選定や搬送の調整を行うため、広島県新型コロナウイルス感染症患者トリアージセンターを開設している。

あわせて、感染拡大の状況（フェーズ）に応じた病床の確保目標を設定し、病床を整備している。患者数の状況を踏まえ、10月1日からフェーズ3へ引き下げている。

病床確保・利用状況 (10月3日現在)

入院者数	確保病床数	空床率
72人	569床	87.3%

(2) 宿泊療養施設の整備（令和2年4月21日～）

軽症者の宿泊療養施設については、感染拡大に伴い拡充を進めている。

宿泊療養施設利用状況 (10月3日現在)

入所者数	設置施設数	確保室数	空室率
100人	10施設	1,597室	93.7%

(3) 軽症者等の搬送体制の整備（令和2年5月1日～）

民間の患者等搬送事業者の協力により、医療機関から宿泊療養施設等への患者搬送を実施したが、令和2年6月5日からは、県保健所等に搬送車両(CX-8)を導入している。

3 PCR検査の実施体制

PCR検査状況 (令和2年1月30日～令和3年9月30日)

陽性件数 (A)	検査件数			陽性率 (A) / (B)
	行政機関実施	医療機関実施	合計 (B)	
21,522件 (219件)	616,322件 (11,714件)	254,535件 (5,599件)	870,857件 (17,313件)	2.47% (1.26%)

※ () は直近7日間（令和3年9月24日～9月30日）の検査状況

4 医療資材の確保・供給体制

感染防止対策に必要な医療資材については、各事業者が自ら確保することが原則であるが、感染症が蔓延した時期において、市場での流通がひっ迫したため、県が医療体制の維持を目的として、備蓄や購入品、国からの供給スキームを活用して指定医療機関等を中心に配付してきた。

(1) 資材の配付状況

(9月16日現在)

配付先	マスク	N95 マスク	ガウン	フェイスシールド [※]	使い捨て手袋
感染症指定医療機関等	250.5 万枚	58.6 万枚	119.9 万枚	39.6 万枚	672.9 万枚
一般医療機関	384.8 万枚	44.5 万枚	37.0 万枚	9.9 万枚	707.3 万枚
歯科, 薬局, 軽症者療養施設 等	249.9 万枚	1.4 万枚	30.0 万枚	3.7 万枚	86.2 万枚
社会福祉施設等	228.1 万枚	—	17.3 万枚	9.9 万枚	50.5 万枚

(2) 現在の在庫状況

(9月16日現在)

品目	マスク	N95 マスク	ガウン	フェイスシールド [※]	手指消毒薬	使い捨て手袋
在庫数	1,141.6 万枚	99.5 万枚	57.9 万枚	8.2 万枚	0.2 万 L	2,074.4 万枚

5 取組状況

(1) PCR検査体制の拡充

令和2年度に行った検査機器等設備整備事業によって、県内で1日に3,400件程度の受け皿を確保できた。

更に県外を含めた民間検査機関の活用やプール方式などの検査方法の活用も視野に入れた検査体制の拡充を図る。

(2) 医療体制の充実・強化

更なる病床確保に向けて、配慮を要する患者のための受入医療機関の確保のため、関係医療機関と調整を進めている。

区 分	内 容
周産期医療	感染症の重症度及び妊娠時期により、受入医療機関を定めたフローを策定しており、受入医療機関での受入準備を整えている。
小児医療	感染症の重症度に応じて、受入医療機関を定めたフローを策定しており、受入医療機関での受入準備を整えている。
救急医療	感染が疑われる患者がたらい回しされることのないよう、輪番病院等での受け入れが難しい場合の受入先となる医療機関を定めている。引き続き、各圏域における受入体制の強化を図る。
透析医療	感染症の重症度に応じて、受入医療機関を定めたフローを策定しており、受入医療機関での受入準備を整えている。
精神医療	精神疾患及び感染症の重症度に応じて、受入医療機関を定めたフローを策定しており、各医療機関と個別に調整を実施している。

神経・筋疾患	神経・筋疾患の状況及び感染症の重症度に応じて、受入医療機関を定めたフローを策定しており、受入医療機関での受入準備を整えている。
--------	---

(3) 社会福祉施設等に対する支援

令和2年7月、県福祉サービス調整本部において、新型コロナウイルス感染症が発生して運営が困難となった介護施設等へ応援職員を派遣する体制を構築している。

派遣時期	派遣施設	派遣者数	備考
令和3年1月15日から1月24日	高齢者施設	2名	
令和3年6月4日から6月17日		2名	
令和3年6月8日から6月20日		1名	

(4) こころの健康対策

新型コロナウイルス感染症の影響により、ストレスや不安を感じる県民への心のケアを行うため、「広島県こころの悩み相談【コロナ関連】」（電話相談・SNS相談）を令和2年5月25日より開設した。（8月末現在の相談件数 1,238件：SNS 654件、電話 584件）

(5) 宿泊療養施設の運用

患者の動向を注視しながら、新たな宿泊療養施設の運用開始や運営方法等について、確保済み施設、市町、医療機関等と調整を行うなど、計画的に準備を進める。

(6) 医療資材の安定的確保・供給

医療機関等で医療資材がひっ迫した際の備えとして、これまで進めてきた備蓄の量の見直しを行い、使用量の増加や緊急的な供給対象を勘案し、マスクと手袋について備蓄量を増やすこととした。加えて、今後新型コロナウイルスを上回る感染力・毒性を持つ感染症（以下「強毒性感染症」という。）が発生した場合に備え、防護服（セット）及びN95マスクを追加で備蓄することとした。

備蓄している資材については、県が直接保管管理を行っていたが、倉庫業者へ入出庫や保管管理業務を委託し、迅速に供給できる体制を整備した。

(7) 「広島コロナお知らせQR」の実施

QRコードを活用し、新型コロナウイルス感染症の感染者と同じ時間帯に同じ施設を利用した方に対して、感染者と接触した可能性のあることを知らせ、PCR検査を受けていただくようサポートする「広島コロナお知らせQR」を令和2年8月14日から開始した。

国の接触確認アプリ「COCOA」とともに、飲食店を中心に積極的に活用していただけるよう事業者、県民への更なる周知を図っていく。

(8) 積極ガードダイヤル等の相談・受診体制

インフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行に備え、発熱など風邪に似た症状が増えることを想定して、県民がスムーズに診療・検査を受けることができるよう、かかりつけ医や「受診・相談センター」（積極ガードダイヤル）により「診療・検査医療機関」を速やかに案内する新たな相談・受診体制を整備した。（10月3日現在の医療機関数1,258機関）

過度な受診控えは、健康上のリスクを高める可能性があることから、県民が必要な受診やがん検診、乳幼児健診、予防接種などを継続するよう働きかける啓発を行っていく。

(9) 医療機関、介護施設等における検査の拡充

重症リスク者が多数いる医療機関や介護施設等において、感染者を早期に発見し、感染拡大の防止を図るため、従事者に対する定期的な検査を実施している。

医療機関については、令和2年12月から民間検査機関も活用することにより、検査が実施されている。

介護施設等については、月1回の定期的な検査を令和2年12月から県内全域の施設において実施している。令和3年度は、当面の間、月2回程度に拡充して定期的な検査を行っているが、6月中は、集中対策を踏まえ週1回の検査に強化した。

(10) 「PCRセンター」「PCR臨時スポット」の開設

県内全ての高齢者施設、障害者（児）施設、医療機関、飲食店などの従事者、従業員及びその関係者等を対象にしたPCR検査を積極的に行うため、県内に「PCRセンター」を順次、開設しており、対象者や体制等を随時、見直しながら運用している。

《検査実施場所及び開設日時など》

名称	開設日	開設時間	対象者
広島（流川）PCRセンター	R2.12.5	毎日11時～20時	広島県内外の居住者及び就業者
広島（観音）PCRセンター	R2.12.10	毎日11時～15時	
広島（本通り）PCRセンター	R3.5.17		
東広島PCRセンター	R2.12.29		
福山PCRセンター	R2.12.30		
三次PCRセンター	R3.1.10	水・金・日11時～15時	
三原PCRセンターサテライト	R3.6.14	火・木・土11時～15時	
広島駅北口PCR臨時スポット	R3.6.14	毎日7時～15時	
流川PCRセンター臨時スポット	R3.6.14	毎日11時～20時	
福山駅前臨時スポット	R3.7.22	毎日7時～15時	
広島空港到着ゲート臨時PCRスポット	R3.6.14	毎日8時～20時	

(11) 県外往来者を対象としたPCR検査体制の強化

ア 帰省予定者へのPCR検査キット事前送付

検査対象者	夏休み、お盆等にやむを得ない理由で県外から帰省を予定している者
実施期間	令和3年8月1日（日）～8月31日（火）
受検方法	申込フォームに、帰省予定者または地元家族が必要事項を入力→帰省予定者宅へ検査キットを配送→自宅で検体採取→検体を郵送→検査→結果を報告
実績	申込者数 12,063 人（検査済 9,098 人，陽性率 0.1%）

イ 駅・空港での検査体制強化

検査対象者	やむを得ない事情による帰省等で広島空港または広島駅を経由して来広する方
実施期間	令和3年7月20日（火）～ 毎日（配布時間） ① 広島空港 8時～20時 ② 広島駅北口 7時～15時 ③ 福山駅前 7時～15時
受検方法	① 広島空港：検査キットの配布のみ ② 広島駅北口：配布，回収 ③ 福山駅前：配布，回収 （※回収は最寄りのPCRセンターで可能とします。）
実績 （10/3 現在）	① 広島空港（配布者数 7,017 人，回収数 4,640 人，陽性率 0.4%） ② 広島駅（配布者数 32,513 人，回収数 26,342 人，陽性率 0.7%） ③ 福山駅（配布者数 34,660 人，回収数 27,667 人，陽性率 1.1%）

ウ サービスエリアでの検査体制構築

検査対象者	県内で下車する旅行者，出張者及び帰省者 実施場所：山陽自動車道 小谷サービスエリア（下り線）
実施期間	令和3年7月20日（火）～8月31日（火） 毎日（実施時間 8時～17時）
受検方法	サービスエリアにPCR採取会場を設置し，その場で検体を採取する（ウォークイン方式）
実績	受検者数 7,794 人，陽性率 0.7%

(12) 事業所PCR集中検査の実施

感染状況が減少局面にあることを踏まえ，感染収束のスピードを速めるため，6月14日から感染者の発生した事業所の従業員等に対して，幅広く集中的に検査を実施している。感染者数が再び増加しており，職場における感染が見られることから，当面の間，継続する。

・実績（10/3 現在）665 事業所，受検者数 24,314 人，陽性率 0.6%

(13) 変異株検査体制の強化

デルタ（インド）株等変異株の県内の広がりを迅速に把握し、十分な警戒と拡大を防止するため、6月11日から県保健環境センターにおいても、ゲノム解析可能な体制を整備した。

(14) 新型コロナウイルス抗体保有率調査結果の報告

本県の新型コロナウイルス感染症対策に資するため、昨年度実施した新型コロナウイルス抗体保有率調査の結果を、7月15日に発表した。

調査結果から、依然として大半の人が抗体を保有していない実態とともに、広島県内の流行波は県外からの流入によって始まっていることが示唆された。

これに基づき、県外への移動や、県外からの来訪者との接触に際しては、感染予防対策をさらに徹底していくことの重要性を広報した。

《調査結果》

項目	第1回	第2回	第3回
調査期間	令和2年8月～9月	令和2年10月～11月	令和3年1月～2月
参加者数	3,025名	2,396名	2,351名
参加率	40.3%	31.9%	31.3%
測定試薬及び判定条件	ロシュ、アボット及びオーソ（2種類）の計4試薬のうち、いずれか2試薬以上で陽性		
抗体陽性者数	1名	2名	7名
抗体保有率	0.03%	0.08%	0.30%
広島県累積感染者数（感染率）	8月末：458人 (0.02%)	10月末：662人 (0.02%)	1月末：4,831人 (0.17%)